

学力を確実に上げよう

—「学習の3段階理論」を一日も早く確実に身に付けよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

Q：学力を確実に上げるためにはどうしたらよいのですか。1学期の定期テストや実力テスト、模擬試験、英語検定などでよい点数を取るにはどうしたらよいのですか。

A：(林明夫：以下省略)学力を確実に上げるためには、「学習」を「理解」、「定着」、「応用」の「3つの段階」に分けて、1つ1つの「段階」にふさわしい方法、やり方をするをお勧めします。開倫塾では、これに「学習の3段階理論」と名前を付け、塾生の皆様にお勧めしています。

これから、その内容を説明します。現在の成績を少しでも上げたいと希望する方は、その中に今やっていない内容が1つでもあったら、少しずつでもよいですから自分の意志、自分の力でそれに取り組んで下さい。自分の意志、自分の力で学力を上げるのだと強く決意し、次の内容を少しずつでもやり抜けば、すべての試験でよい点数が取れます。学力は必ず上がります。

Q：わかりました。それでは、「学習の3段階理論」について教えてください。

A：(1)はい。ただし、「学習の3段階理論」に取り組む前に、大切なことが1つあります。それは、「学習」という漢字の意味をよく知ることです。

(2)「学習」の「学」は、「学ぶ」という意味です。「学ぶ」とは、「これはこのようなことだと、よくわかること」「理解すること」だと私は考えます。英語の「study スタディ」にあたります。

(3)「学習」の「習」は、「習う」という意味です。「習う」とは、「一度うんなるほどとよくわかったこと」「理解」したことを何回も何十回も繰り返し勉強し直して、「スミからスミまで自分のものとする」「身に付けること」「定着させること」だと私は考えます。英語の「learn ラーン」にあたります。

(4)つまり、「学習」には、「うんなるほどとよくわかる、理解すること」(study)という意味の「学ぶ」と、「一度うんなるほどとよくわかったこと、理解したことを身に付ける、定着すること」(learn)という意味の「習う」の2つの意味があるということです。

この「学習」の2つの意味を念頭に置いた上で、「学習の3段階理論」に取り組んで下さいね。

Q : はい、わかりました。では、次はどうしたらよいのですか。

A : 次の 1 つ 1 つの項目の下にある に、自分が今とてもよくやっていたら◎、普通にやっていたら○、少しやっていたら△、やっていなかったら×とのどれか 1 つの印を付けて下さい。

(1) 《理解》(うんなるほどとよくわかること、腑に落ちること)

[授業中の理解]

- ①授業中は、手を机の上に置き、先生の目を見て熱心に授業を聴く。先生の指示に従って、積極的に授業に参加する。
- ②授業中、必要なことはすべてノートに取る。
- ③授業を欠席・遅刻・早退しない。また、忘れ物をしない。
- ④授業中には、私語(おしゃべり)・居眠り・ケータイ・他のことを考えることをしない。

[授業後の理解] (復習)

- ⑤授業後に、授業中に勉強した「教科書」「教材」「問題集」「ノート」をもう一度勉強し直す。授業中に勉強した計算や問題はもう一度やり直す。
- ⑥よくわからない語句は、辞書や用語集、学年別参考書を用いて調べる。調べたことは、意味調べノートや単語帳、ノートに書き写し、いつも 1 ページ目から読み直す。

[授業前の理解] (予習)

- ⑦授業の前には、その日に授業で勉強する「教科書」「教材」「問題集」を予めよく読む。わからない語句は、辞書や用語集、学年別参考書を用いて調べる。調べたことは、意味調べノートや単語帳、ノートに書き写し、いつも 1 ページ目から読み直す。教科書や教材、問題集にある計算や問題をすべてノートに解いてみる。

* 「復習」と「予習」で最も大切なのは、「辞書」の活用です。わからない「ことば」や「語句」があったら気持ちが悪いと思い、「辞書」をどんどん引いて意味を確かめる。辞書で調べた内容は必ず「ノート」などに書き写し、その「意味」を何回も何十回も読み直して、自分のものにする。これが成績向上の秘訣です。ことばは力です。辞書を引き、言語力を身に付けましょう。

(2) 《定着》(一度うんなるほどとよくわかった・理解したことを確実に身に付けること)

[音読練習]

- ⑧一度うんなるほどとよくわかった・理解した内容について、「教科書」「教材」「問題集」「授業中のノート」「意味調べノート(語句ノート)」などを大きな声を出して読む。スラスラ読めるようになるまで読む。何も見ないで正確にスラスラ言えるようになるまで、何十回も何百回も声を出して読む(これを「音読練習」という)。

[書き取り練習]

- ⑨一度うんなるほどとよくわかった・理解した内容で、「教科書」「教材」「問題集」「授業中の

ノート」「意味調べノート(語句ノート)」などの内容の中でよく書けなそうな語句については「楷書」(かいしょ、教科書の書体)で正確に書けるようになるまで何回も書いて覚える(これを「書き取り練習」という)。

* 「音読練習」と「書き取り練習」をするときには、特に、「～は…だ」という「定義」(ていぎ、ことばの意味)は何も見ないで正確に言え、楷書で正確に書けるようにすること。

[計算・問題練習]

①なぜそのような解答になるのかが、一度うんなるほどよくわかった・理解できた計算や問題(教科書や教材、問題集、授業中のノートにある計算や問題のすべて)を何回も何十回も繰り返しやり直す。そして、計算や問題を見た瞬間に条件反射でパッパッパッと正解が出るまでにする(これを「計算・問題練習」という)。

* この「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つを、「定着のための三大練習」と開倫塾では呼んでいます。練習、練習、また、練習。練習は不可能を可能にする。この「定着のための三大練習」こそが、学力を飛躍的に向上させます。

(3)《応用》(試験でよい点数を取ること)

⑩定期テストや実力テストは、「予想問題」を5種類、同じ問題を5回以上やり直す。模擬試験や入学試験、検定試験は「過去に出題された問題(過去問)」の5年分を5回以上やり直す。

⑪「予想問題」や「過去問」、「今受けた試験問題」は必ずやり直す。やり直すときには、先生の授業を受けるつもりで、解答集の解説を一語一句ていねいによく読んで「理解」に励む。問題文、設問、解説文の中で意味がよくわからない語句はすべて、辞書や用語集、学年別参考書などで調べる。調べた内容はノートに書き写し、それを何回も何十回も繰り返し読み直して正確に身に付ける。意味がうんなるほどよくわかり、理解できた「問題文」「設問」「解説文」は、教科書などと同じように「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「定着のための三大練習」を繰り返して、すべて身に付ける、定着させる。

[間違いノート、まとめノート]

⑫一度間違えた計算や問題は、各科目ごとの「間違いノート」に書き写し、集中的に何回もやり直す。重要事項は、各科目ごとの「まとめノート」に要点を整理し、メモをし続ける。それを1ページ目から何回も繰り返し読み直す。

[読書と新聞]

⑬新聞は必ず毎日読み、世の中の動きを知り、自分で考える力・批判的思考能力を身に付ける。「新聞切り抜き帳」「スクラップブック」をつくる。1週間に1冊以上は、学校の教科書で紹介されている本や学校の図書室にあるような本を時間をかけてゆっくり読み、読書による思慮

深さ(しりよぶかさ)を身に付ける。「書き抜き読書ノート」をつくる。

⑮人は何のために生きるのか、人は何のために仕事や社会的な活動をするのか、人は何のために学ぶのか、人は何のために進学をするのか、人は進学して何をするのかをよく考える。自分の置かれた立場をよく自覚して勉強の仕方を工夫し、勉強時間を確保しながら自主的に勉強する。

Q：最後に一言どうぞ。

A：以上の 15 項目の内容が、自分でできているかどうかを○、△、×を付けながら確かめて下さいね。○を付けたものは、もっともっと積極的に行って下さい。△や×を付けたものは、「学習」の意味をかみしめながら、少しずつでも O.K.ですから、時間をかけて確実に自己責任、自助努力、自分の力でやり抜いて下さい。

努力は必ず報われます。この 15 項目を確実にやり抜けば、必ず成績は大幅にアップし、学力が向上します。

— 2012 年 5 月 4 日林明夫記—